



災害救護車両お披露目式

平成 26 年 1 月 31 日

第三次長野県地域医療再生事業（災害派遣医療
チーム（DMAT）等体制整備事業）として災害
救護車両製作を開始

平成 26 年 11 月 28 日

災害救護車両の完成

■車両の特徴

本車両は、救命のための蘇生処置、簡単な外科手術、診察及び簡易な処置ベッドを有した、言わば『動く診療所』です。病院の損壊等により一部機能麻痺状態に陥っても、復旧まで緊急の医療を提供することが可能です。また、災害派遣時では、被災地にて地盤の安定した場所など救護所の選定のうえ、テントの設営、医療資機材を展開する時間も診療設備の整った自走式トラックの乗り入れにより設営時間を最小限にすることができます。

現在問題となっているエボラ出血熱や新型ノロインフルエンザといったパンデミックに対しても、病院外での隔離診療や複数名の感染症疑い患者の専門病院移送にも有効な手段となります。

搭載装備・仕様

■搭載医療機器

- ストレッチャー
- バックボード、ヘッドイモビライザー
- LED 无影灯
- 人工呼吸器
- 心細動除去装置
- 吸引器
- ベッドサイドモニター
- シリンジポンプ
- 輸液ポンプ
- 低圧持続吸引器
- 救急カート
- 高圧蒸気殺菌器
- パルスオキシメータ
- 血液分析装置

■通信・OA 機器

- 車載衛星携帯電話用車載アンテナ
- リアルタイム映像送信システム
- BS/CS デジタル衛星放送受信アンテナ
- 赤十字業務用無線（150MHz）25W
- 簡易デジタル無線
- 衛星携帯電話
- プリンター・FAX 複合機
- テレビ（26 型タイプ）
- ビデオカメラ
- カーナビゲーション

■特殊装置

- 屋根部収納庫
- 電・手動式天幕
- 手動式天幕
- 給水・排水ホース
- ストレッチャー昇降用リフト

■診療資器材

- 診療資器材バック
- 薬品セット
- 事務用品セット

■主要諸元

- 全長：11.07m
- 全幅：2.49m
- 全高：3.66m
- 車両総重量：10.39t
- 総排気量：5,000cc 以上
- 乗車定員：12 人
- 最高出力：210 馬力以上



諏訪赤十字病院

日本赤十字社

DISASTER RESCUE

災害救護車両



DISASTER RESCUE

この『ディザスターレスキュー（災害救護車両）』は、大規模災害時の被災地における情報収集や現地救護活動の拠点としての機能を有し、救護活動や本部及び関係機関との情報交換等を迅速に行うことができます。超急性期段階での救護活動を支える最新の医療機器を備え、『動く診療所』としてつくられました。



車両内部及び搭載装備 ①



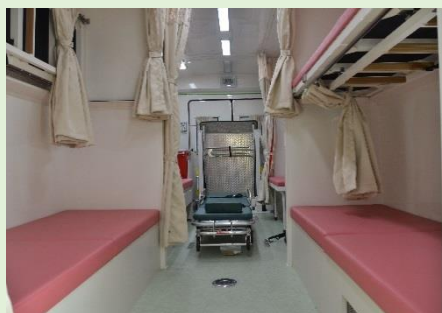
◎診療スペース

車両後部の扉から電動昇降台に傷病者を乗せ、ストレッチャーの出入れができます。両脇に2台のベッドを備え、救急カートが設置されています。



◎医療機器

最新の医療機器を搭載し、救命のための蘇生処置、簡単な外科手術が可能です。マウントシステムにより走行中でもしっかり固定され、走行しながら医療行為を行えます。



◎車両内部

跳ね上げ式ベッドを備え、救護員の休息スペースを確保しています。

車両内部及び搭載装備 ②



◎通信機器

2種類の無線が設置されており、隊員間の交信や関係機関との通信に使います。また、映像伝送システムにより外部カメラから送信される映像を車内または病院等にて周囲の状況をモニタリングできます。



◎発電機、滅菌器

車両下部に設置された貯水タンクにより車内で水が使える、診療材料の滅菌にも使用可能です。また、発電機により医療機器や通信機器等の運転ができます。



災害時、いち早く駆けつけ、被災者の方々に希望を届けます。